

令和6年度 学校関係者評価委員会における委員の意見及び本学の認識・対応方針

評価分野	委員の意見	本学の認識・対応方針
1 教育理念・目標	<p>【神谷委員】 評価項目3「教職員に対して教育理念等を明文化して周知を図っているか」については、自己評価値が4となっているが、エビデンスを教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員に対し、本学の基本理念、教育目標等について記載がしてあるガイドブックを配布するとともに、学内の各種会議や委員会において、周知しています。
2 学校運営	<p>【宮田委員】 資料編 5 ページの目標指標3の授業評価アンケートの結果と、資料編 21 ページからの学生の授業評価アンケート結果の「満足度」の点数とはどう連動しているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から授業評価アンケートの評価方法を変更しており、授業満足度は、4（十分満足）、3（満足）、2（普通）、1（不満足）の4段階で学生が評価しています。 ・資料編5ページの目標指標では、1（不満足）の回答があった授業数をカウントしています。
	<p>【宮田委員】 この目標指標（資料編5ページ、目標指標3）は、単年度目標を達成していないため、達成度は0%と厳しい評価であるが、「やや不満足」「不満足」の授業数は前年度に比べて減少している。 改善に向け、どのような取り組みをしているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の授業終了後に学生にアンケートを行っており、学生から授業のどこがよかったか、どういうところを改善してほしいかなどの意見を収集しています。これを担当教員にフィードバックして、授業改善を進めています。
	<p>【神谷委員】 開講授業数がどれだけあって、授業評価アンケートを行う割合はどのくらいか。また、常勤の教員、非常勤講師へのアンケートの実施方法を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、1年生35科目、2年生29科目を開講し、授業評価アンケートは、非常勤講師の授業を含む全授業科目で実施しています。 ・授業評価アンケートは、常勤の教員は前期、後期の授業終了後に、非常勤講師は受け持ちの授業終了時に実施しています。
	<p>【神谷委員】 資料編7ページの組織図で、全体会議とあるが、教職員会議と何が違うのか。組織図の中での位置づけがよくわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議は、年度初めに開催する技能職員を含めた全職員が参加する会議で、学校運営の基本事項等について、教職員に周知しています。 ・組織図での位置づけにつきましては、わかりにくいというご意見がありましたので、見直しを行います。

3 教育活動	<p>【神谷委員】 G P Aが非常に低い学生にはどのような対応、指導をしているのか。 保証人に成績表を送っているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績がすぐれない学生に対しては、各授業科目の担当教員が個別に指導しています。 ・成人年齢の引き下げにより、保証人（ご家族）には特別な場合を除き、基本的には成績表は送付しておりせん。 <p>※G P A（グレード・ポイント・アベレージ） $\text{（グレード・ポイント} \times \text{授業時数）の総和} \div \text{履修授業時数}$</p> <table border="1"> <tr> <td>成 績</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>グレードポイント</td> <td>100</td> <td>60</td> <td>20</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>成績ごとのグレード・ポイントは本学独自で設定</p>	成 績	A	B	C	D	グレードポイント	100	60	20	0
	成 績	A	B	C	D							
	グレードポイント	100	60	20	0							
	<p>【神谷委員】 G P Aをしっかりと出しているのに、低い学生の指導だけでなく、特に優れた学生の表彰や奨学金制度などを活用するとよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・G P Aが特に優秀な学生に対しては、卒業時に学長から表彰を行っています。 ・学校独自の奨学金の給付者選考は、1年生の5月に行うため、入学試験の成績優秀者を優先的に選定しています。 										
<p>【水野委員】 評価項目 57 は、高校との連携についての項目となっている。アカデミーからも県内農業系高校にいろいろな協力をいただき、双方の学生・生徒が力をつける形になっている。自己評価値が3は厳しいと思うが、評価値を4にしていくために何か考えはあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業高校への学校訪問を行うとともに、進路ガイダンスにも積極的に参加しています。その中で、「花と緑の連携授業」（高校等の授業の一部を本学教員が講師として受け持ち、花と緑に関する魅力ある授業を展開）のニーズをつかみ、連携を深めていながら、実施する学校の数を増やしていきたいと考えます。 											
<p>【水野委員】 我々もいろいろなところで生徒たちが地域と連携しながら様々な取り組みを行っているが、相手が思うニーズと我々が思うニーズが時代によって変わってくる。取捨選択をうまくやってもらえるとよいのでは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「花と緑の連携授業」は、令和5年度6回実施しましたが、高校数は3校と限られた高校での実施に留まっています。本学教員も自分の専門をP Rする貴重な機会にもなり、積極的に取り組むようにしています。 ・各高校のニーズを汲み取りながら、本学教員が持つ専門性とうまくマッチングできるように取り組んでいきたいと考えます。 											

<p>4 学修成果・教育成果</p>	<p>【神谷委員】 最近は多様な学生が入学するようになり、どこの大学でも苦 労している。学生の中には入学前に思っていた学校生活と違 うということで、休学や退学する学生も多い。 資料に休学者、退学者数があるが、学生数が少ないため、1 人でも割合は大きくなるため、評価が難しい。こうした中で、 これまで休学した後に復学した学生はどのくらいいるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5か年で、休学した学生が6名おり、復学して卒業した学生は1名のみです。5名は、休学後、最終的に退学しています。 ・休学中の学生に対するフォローにつきましては、学生ごとに原因や進路に対する考え方などが様々であり、対応が難しい状況にあります。
	<p>【宮田委員】 資料編34ページの資格取得状況だが、2級造園技能検定の 実技試験の合格率が25%と低調な理由は何か。また、対策 を検討しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は受検者4名と少ないため、割合にすると合格率が大きく低下しています。過去5か年を平均すると、本学の2級造園技能検定の実技試験の合格率は71%で、全国平均の54%を上回っています。 ・実技試験の中に樹木の枝を見て樹種名を答える試験があり、令和5年度は、この科目で不合格となった学生が多くいました。 ・対策としては、講義で繰り返し樹木をしっかり見るように指導するとともに、補講を行うなど、学生の習熟度に合わせてフォローしていきます。
	<p>【宮田委員】 令和5年度の卒業生を見ると、全体の就職状況は良いが、県 内の就職者数が4名となっている。県内就職数が少ない要因 と改善に向けた対策を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票も7割ほどが県外企業からであり、県外出身の学生のほとんどが地元や大都市で就職する傾向にあります。県内出身者でも、労働条件のよい企業や魅力ある企業を求めて、県外企業を選択する学生もいます。 ・ぎふ花と緑の振興コンソーシアムや連携協力協定を締結している自治体等と連携し、県内の企業を発掘し、インターンシップなどを通じてマッチングに取り組んでいきます。
	<p>【佐々木委員】 県内出身者と県外出身者が半々とのことだが、自分の子供が 入学するまで私もこの学校の存在を知らなかった。ここは素 晴らしい学校だと思うので、県内からの学生を増やす試みをしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の農業高校を重点に、普通高校にも学校訪問を行っています。また、県内高校の進路ガイダンスにも出席して本学のPRを行っています。 ・できるだけ多くの県内の生徒に受験してもらえるように募集活動を行っていますが、ご家族、高校の教員を含めて、本学についての認知度を高めることが重要であり、引き続き、様々な活動を通してこれからも努力を続けていきます。

	<p>【加藤委員】 県内の生徒が入学すると、県内に就職する確率が高まる。努力されているが、一層の努力をしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内からの入学者を安定的に確保するよう、県内農業高校等との連携強化、情報発信による認知度向上に努めます。 ・岐阜県の花と緑の業界等と連携し、業界のニーズを踏まえた人材育成に向けて、引き続き取り組んでいきます。
5 学生支援	<p>【松尾委員】 最近の学生の考え方が我々とは違ってきているように思うが、最近の学生の傾向を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の学生は、スマホを子供の頃から当たり前に使っており、常にスマホを触っています。学業においても、スマホから情報収集を行う学生が多くなっています。 ・本学は高校を卒業して入学する学生が多く、一人暮らしを始める学生も多くいます。中には、生活環境の変化に順応できない学生もいます。生活のリズムが不規則になり、学校に出て来られなくなり、休みがちになる学生もいます。
	<p>【水野委員】 アカデミーに入学した学生の農業高校出身、農業高校以外の高校の出身の割合を教えてください。 休退学の理由は、メンタル的なものか、学校生活が思っていたものと違うことによるものなのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出身高校では、直近5か年の平均で74%が農業系高校で、そのうち40%が県内の農業高校となっています。 ・休退学者の中には、学校生活が思っていたものと違うという学生もいますし、入学してからの人間関係などの要因もあります。 ・本学としても、学生の様子を観察しながら、早めの相談やカウンセリングなどを通じて、学生の悩みに寄り添う対応に取り組んでいます。
	<p>【小栗委員】 学生の面談・相談記録や社会人の支援の項目の自己評価値が3となっているが、評価値を4にするための対策を考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面談記録を取り、それを教職員で共有することが重要と考えています。それぞれの立場で支援できる体制を整備していきます。

<p>6 教育環境</p>	<p>【神谷委員】 インターンシップの関係では自己評価値を3としているが、インターンシップ先の職種や企業はどうなっているか。 また、起業したい学生向けの講座等を行っているか。 公務員試験の対策講座を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の就職先の約6割がインターンシップ先となっています。インターンシップ先の職種は、過去5か年実績で、造園関係100社、公園管理・観光43社、生花店・冠婚葬祭で146社、流通関連6社、生産関係39社となっています。 ・起業やマネジメントに関する授業については、令和5年度から、1年生後期の必修科目として「起業・経営シミュレーション」を開講しています。業界からの要望に応える形で、企業経営について、経営学の基本的な理論を用いて考えることを目標としています。 ・公務員試験の対策講座は行っていませんが、現在、教職員の中に、本学の卒業生が2名おり、こうした教職員から勉強のやり方を教えるなど、試験対策を支援しています。
<p>7 学生の受入れ募集</p>	<p>【水野委員】 「ぎふワールド・ローズガーデン」に実習フィールドを開発されたが、いい所に作られた。例えば、生涯学習やインターンシップ報告会など、学生が活躍する場面をぎふワールド・ローズガーデンで土日に行えば、多くの方にアカデミーを知ってもらえるのではないか。学生も多くの人に見てもらう緊張感の中でチャレンジすると成長するのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぎふワールド・ローズガーデン」(以下「ぎふWRG」)の実践教育フィールドにつきましては、令和6年度から本学のサテライト施設として本格的に利用を開始したところです。令和6年度からのカリキュラムにおいても、「ぎふWRG」花トピアでの作品展示や販売実習、座学の授業等を増やしています。 ・発表会等を「ぎふWRG」で行うことによって、多くの来園者に見てもらおう中で、学生も緊張感をもって発表を行うことができます。また本学のPRにもなります。さらに実践的な教育につながるよう、今後の活用方法を考えていきます。
	<p>【柿本委員】 学生の募集はいかに広く学校について知ってもらうかが重要。若い人はSNSの世代。以前、学校運営に関する会議の際にもSNSの活用を提案した経緯がある。 アカデミーでは、インスタグラムも行っているが、もう少しリールを活用してはどうか。現在、投稿は写真のみで、つながっている人だけしか見ない。動画をリール投稿すれば、さらに多くの人に見てもらえるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのブログやSNSにもほぼ毎日投稿しており、学校からの情報発信に努めています。 ・インスタグラムにおけるリール投稿も始めたところで、魅力的な動画を通じて多くの方とつながり、この学校に興味をもつていただくような情報発信に努めていきます。

10 社会貢献・地域貢献	<p>【松尾委員】 学生のボランティア活動やアルバイトは大事なこと。大野町のバラまつりに生産物販売のブース出店とあるが、学生が物販を通じて販売に関する実践的な勉強ができる機会は他にもあるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年10月下旬に2日間、「ぎふワールド・ローズガーデン」で、1年生の必修科目の「イベント販売実習」を行い、学生が学校で育てた花苗の値段付けから店づくり、販売分析までを一貫して学ぶようにしています。 ・6月に開催する学園祭も学生が花苗の販売を体験する場となっています。
全体と通じた意見交換	<p>【加藤委員】 アカデミーの教育内容も充実してきたと感じている。今西学長の夢を聞かせていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際園芸アカデミー有識者会議報告書（令和3年3月）において、今後の検討課題として、国際園芸アカデミーの「ぎふワールド・ローズガーデン」への全面移転について言及されています。 ・移転すれば、今の場所よりも何十倍もの大きなキャンパスで、学生も教員も来園者に見られている緊張感の中で実習などに取り組めます。また来園者とのコミュニケーションもとれますし、学生も来園者からの質問に答えられる知識が必要になります。このように大きな効果があると思っています。
	<p>【佐々木委員】 今後、学生寮の設置は検討されるのか。県外出身者が多いし、私の子供も県内ではあるが2時間かけて通学している。寮があると親としても安心できる。生活のリズムも崩れることがないと思う。前向きに検討してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の規模的にも学生寮の設置は難しいと考えます。こうした施設を新たに整備すると、行政としても財産の維持管理コストが増えるため、近年は借り上げることも多い傾向にあります。 ・将来的には、学校機能の「ぎふワールド・ローズガーデン」への全面移転を検討する考えもあり、その場合、公園内にホテルが整備できれば、その一部を借り上げて、学生寮として活用することも検討していきたいと考えます。